



1. 1896年、群馬県知事の頃の石坂昌孝 2. 自由民権運動の主導者である板垣退助が石坂に宛てた式辞 3. 豪快な書風の野津田神社の幟は1898年に揮毫したもので、町田市登録文化財の一つ 4. 自由民権の森に建てられているお墓 5. 自由民権の碑は長女美那と北村透谷の出会いの地を記す碑でもある 6. 野津田神社の鳥型の石灯籠は村民の安泰を願う昌孝が寄進。右側の灯籠裏面に石坂吉利と刻まれている



石坂昌孝

特集 2

自由民権の森に眠る
時代の先駆者

町田市野津田町にある
自由民権の森の中の町田ぼたん園。
春に可憐な花を咲かせるこの地には
かつて三多摩地区の自由民権運動のリーダーであった
石坂昌孝の屋敷が建っていた。
その跡を見守るかのようには、
大きな墓石がひっそりと佇んでいる。

石坂昌孝に関する資料は自由民権資料館で常設展示や企画展示を行っています。

町田市立自由民権資料館 町田市野津田町897番地 042-734-4508 午前9時～午後4時30分 月曜休館(祝日、振替休日にあたるときはその翌日) 入館料:無料

明治初期、全国各地で大きく広がった自由民権運動は、国会開設や憲法制定、地租軽減、地方自治などを求めた政治運動。中でも町田の民権家たちの動きは西の土佐を凌ぐほどで、その中心人物が石坂昌孝だった。

石坂昌孝は1841年6月11日、多摩郡野津田村(現・町田市野津田町)に生まれた。暖沢の母の実家の養子となり、16歳で養父が死去、名主職を継ぐことになる。自宅に作った天然理心流道場に、新選組の近藤勇を招き、剣術の稽古を行ったこともあるという。

石坂は、早くから地域の教育運動を組織し、常に地域民権の先頭に立ち活動していた。戸籍区戸長・大区区长を経て、1879年には初代の神奈川県議会議長となる。しかし、議会中に憤懣をあらわにし、演説をすると、後日議長を辞職した。在任期間は25日、実質仕事をしたのは3日半だった。だが、その後の活躍はめざましく、県議会議員を中心に有志を組織し、精力的に民権運動に邁進していった。武相懇親会の開催や、政治結社融貫社設立の中心的役割を果たし、神奈川県における民権運動の最高指導者でもあった。

1890年(明治23)の国会開設に際しては第1回衆議院議員総選挙に神奈川県三多摩(三多摩)から立候補し当選。その後、3期連続で当選すると、1896年(明治29)8月には三多摩出身者で初の県知事(群馬県)にも抜擢された。しかし、足尾銅山事件の処理をめぐり罷免。在任期間は僅か8ヵ月にも満たなかった。

群馬県知事を最後に政界から引退した石坂は国事に奔走しすぎて家産を失い、残るは井戸と塀ばかりの「井戸塀政治家」だと言われている。小野路の小島家には石坂の借金証文も残っている。家族は四散し、長女の美那は猛反対を押し切つて若き文学者・北村透谷のもとへ、長男の公歴は渡米し、そのまま異国に骨を埋めることになる。孤独な晩年を過ごした彼は1907年(明治40)1月13日、牛込(現・新宿区)の寓居で逝去。66歳の生涯だった。葬儀は野津田町の華厳院で行われ、後に村人たちによって自由民権の森に大きな墓碑が建てられた。

激動の時代を怒濤の勢いで駆け抜けた石坂昌孝。激しい民権運動が繰り広げられた野津田の社は、穏やかで静かな時を刻んでいる。